

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

熊本県山都町 山都町包括医療センターそよう病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	15	-	ド透訓	救臨へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
13,966	4,480	第2種該当	-	10：1

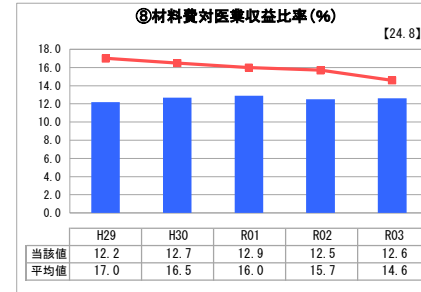
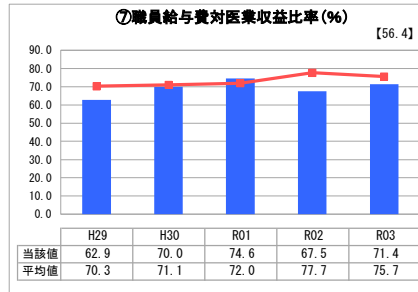
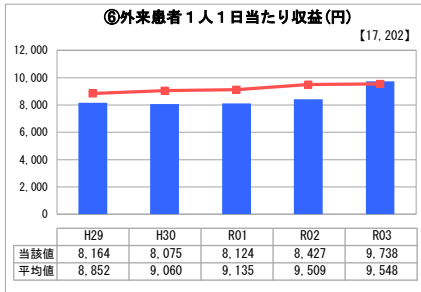
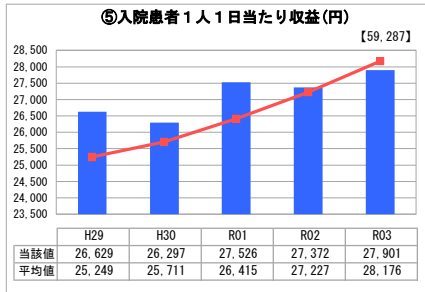
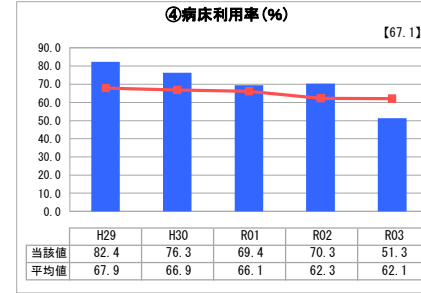
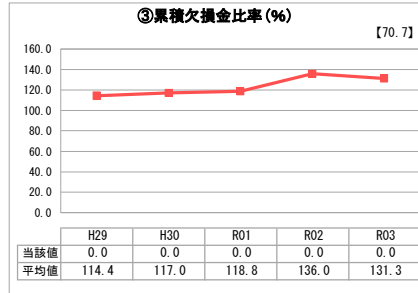
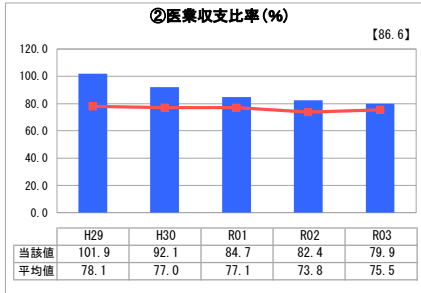
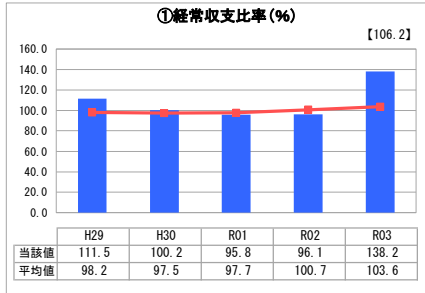
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

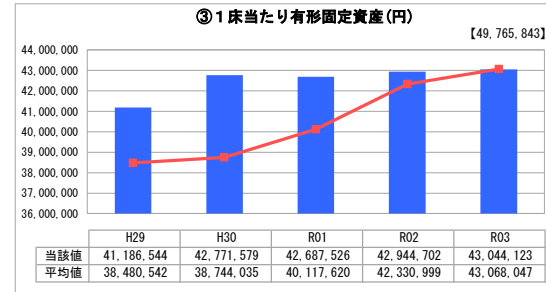
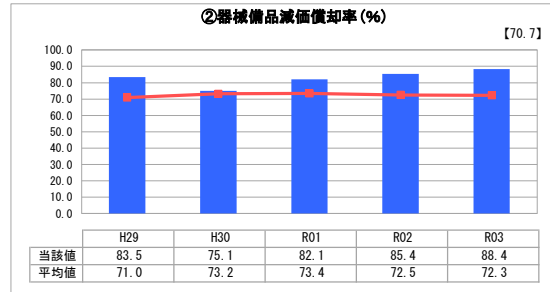
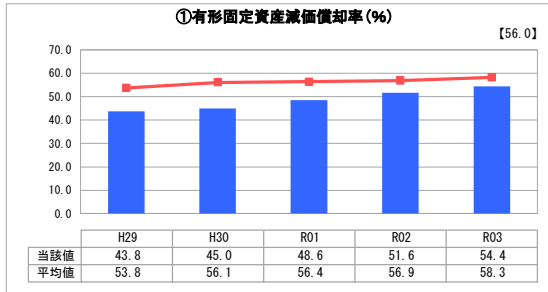
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
57	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	57
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
39	-	39

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

### I 地域において担っている役割

上益城郡内唯一の救急告示病院、国保直診病院及びへき地医療拠点病院として地域の基幹的な医療確保のために重要な役割を担っている。また、医療環境の的確かつ柔軟に対応することで、住民の生命・健康そのものにかかわる医療サービスを提供し、地域全体の包括ケアの一翼を担っている。

また、新型コロナウイルス感染症まん延に対して医療資源が限られている地域として、民間の医療機関が対応できず、自治体病院としての医療提供体制構築等の果たすべき役割を積極的に取り組んでいる。

### II 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

- 令和元年度より2年連続にて赤字決算となっていたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症における経営形態の見直しを行い、院内BCPの観点や働き方改革などを考慮し業務見直しやICT活用による省力化、医師・看護師のタスク・シフティングを行ったことにより黒字決算となった。
- 適正な医師の確保、職員数の定員管理、給与水準の適正化を図り、材料費等の費用における削減を行った。
- 関係機関との連携による患者数の増加や平均在院日数の短縮を図り、収入の確保に務めた。

#### 2. 老朽化の状況について

- 平成24年11月の病院新築移転にあわせ、高額医療機器（透視機器、MR、CT等）の新規・更新を行っているが、耐用年数が5年と短いことにより器械備品減価償却率が平均値を上回っている。
- 平成30年度には高額機器である電子カルテシステムの導入（翌年度償却開始）により減価償却率が増加していく傾向となる。

全体的に新しく当面はメンテナンス等により現状維持にて問題はないが、将来的更新に向けて収支の適正なバランスをはかりつつ機器の更新を行っていく。

#### 全体総括

平成24年11月に移転新築したが、旧病院施設の固定資産（未解体・未除却にて残存価格あり）が影響し前年に続き有形固定資産が増加した状態となっている（解体については最近の度重なる自然災害による解体費用の相場を見計りながら計画を進めていく）。

引き続き、地域医療に取り組むだけでなく、「地域包括ケアシステム」の拠点となるように努め、公立病院に求められる役割を果たしているか自己点検・評価するとともに町の附属機関である「そよう病院運営委員会」にて審議・評価し、地域の基幹病院として住民の期待に応えていく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。